

事業実施報告書

法人名	NPO法人Re-each
活動名	自閉スペクトラム症(ASD)の子供達の事を本質的に理解する講演・講習事業
助成事業の種類	SDGs推進活動助成
	人間分野
事業の目的	
<p>今回、「①自閉スペクトラム症(ASD)の子どもたちのことを本質的に理解する講習の実施」と「②自閉スペクトラム症(ASD)の子どもたちの理解を深める講演会の実施」の2の事業を実施した。ASDは、コミュニケーションの困難さ、社会性の課題、こだわり行動を中心とした特徴のある障害であり、そんなASDの子どもたちの言動への理解は困難を極める。そこで事業①は、理解が難しいASDの子の言動について、目の前の子ではなく、100名を超えるASDの当事者の方のリアルなお言葉(感覚)を保護者・支援者の方々に届けることで、理解を深め、より一層の子育て・支援の充実に繋げて頂く事を目的として行った。事業②は、ASDの当事者の方の声を直接聴くことで、自らの感覚や考えと当事者のリアルな感覚とのギャップを感じ、学びを深めて頂くことを目的として行った。コミュニケーションや社会性に課題を抱えるASDの当事者の声を直接聞く機会は全国的にも非常に少なく、学び方としても全く定着していない。基礎的な知識や経験以外の学び方の1つとして「当事者の声」を確立していただく事も1つの目的として事業を行った。</p>	
事業で取り組んだ地域や社会の課題	
<p>①の事業は、埼玉県内の放課後等デイサービス、特別支援学校の職員とその保護者の方々を対象として行った。ASDはコミュニケーションや社会性に課題があるため、表出する言動に対して本人から思いや感覚を聞こうと思っても大変難しい。実際、今回の事業で集計した勉強会の事前アンケートで聞いた「ASDの子が理解できず支援で困ることがあるか」という質問に対しては質問に対しては96.1%の支援者が「ある」と答えている。平日頃、ASDの子どもたちと関わっている支援者すら、ほとんどの方が困りながら支援をしているという状況であり、予想通りの結果となった。こういった状況ではASDの子やASD傾向の強い子の安心を守ることができない。そんな課題の解決にも今回の事業は貢献できると考えた。事業②は特に保護者の方に焦点を当てて行った。ASDの子を育てる保護者の方は定型発達の子(障害の診断が無い子)を育てる保護者の方よりも高いストレスを抱えることも明らかになっている。そんな保護者の方々に、ASD当事者の声を参考にして「理解・予想ができる」という感覚を持っていただくことも1つの課題解決として位置付けられる。</p>	
取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	
<p>事業①は、ASDの子を育てる放課後等デイサービスや特別支援学校の支援者を中心に、これまで集めた100名を超えるASD当事者の声を講習(研修)という形で伝え、支援方法、対処方法の検討を行ってもらった。講習は1回30分。とにかく多くの施設、学校で受けていただくため、無料で実施した。内容はASDの子が表出する言動や様子について22のテーマから1つ選んでもらい、1テーマ15分程度でお話をした。最終的に実施回数は14回。計207名に声を届けることができた。事業②では、代表である亀尾による講演を45分、休憩を挟み、ASD当事者と参加者の交流会を45分行った。参加者は35名。予定よりも少ない人数であったが、ASDの子を育てる支援者のみならず、参加していただきたかった保護者の参加も一定数あった。「成果の具体的な内容」の所で細かく記しているが、事業①②のどちらでも、非常に高い評価をいただくことができた。また、事業①に関しては2026年にも実施してほしいという声を頂くことができている。ASD当事者の方の声から学ぶことの重要性を多くの方に伝えられたと感じている。</p>	
事業実施により達成した成果の具体的な内容	
<p>事業①に関しては、講習後アンケートにて「ASD当事者のリアルな声(言葉)から学ぶことについてどう感じたか?」という問いでは97.7%の方が「重要である」と回答。「講習会の内容が今後の支援に役立つか」という問いに対しては97.1%が「役立つ」と回答。さらに「講習前と比較してASDの理解が深まったと感じるか?」という問いに対しては88.4%が「深まった」と回答をしてくださっている。また、事業①を行った後に施設より、これまで定まっていなかった児童に対する支援の方向性を検討し、固めることができたという有難いお言葉を頂戴することもできた。事業②のアンケートでは前半の講演会が「4.7/5」。後半のASD当事者との交流会が「4.85/5」と、大変高い評価を頂いた。また「ASD当事者のリアルな声(言葉)から学ぶことについてどう感じたか?」という問いでは100%が「重要である」と回答。「オンラインでも事業②のような講演・交流会があれば参加したか?」という問いに対しては95%が「参加したい」と回答してくださった。今後の活動の推進に繋がる非常に有益なデータが取れたと感じている。</p>	

費用面での工夫
費用面ではいくつかの課題があった。1つ目はコンビニ等での印刷代(その他)の申請を行っていなかった上に、当初想定していたよりも使用する必要があったという事である。前半で申請を行い、他の経費を削る形で対応ができていたため、最終的には問題にはならなかった。もう1つは、備品の価格変動である。申請時と購入時の価格差があり、備品に対して数千円多く支払うこととなった。ここに対しても他とのバランスを取る形で対応を行うこととした。しかし、事業②で最初に声をかけていたASD当事者の方6名の内2名欠席となり、4名分の謝金と交通費のみ必要となったため、経費が1割削減された。そのことを踏まえ、可能な範囲で旅費交通費の仕様に積極的に充てる判断をした。オンラインでの打ち合わせや資料説明の機会を作ることもできたが、積極的に施設に赴き、説明を直接できるように工夫をした。さらに、Google広告を使用することで、東京・埼玉に住んでいる方々に対し、事業②の宣伝を行う工夫も経費の中から行った。
地域社会への還元
今回の事業は、アンケート結果から考えても、ASDの子どもたちを育てる保護者・支援者の方々の学び、理解には確実に繋がったと言える。この事業は、続けることによって少しずつでも確実に、埼玉県内の障害福祉、障害者への支援をより充実したものに変えていくと考えられる。さらに、ASD当事者の声から学ぶ機会は全国的にも非常に少ない。特にASD当事者の言葉を直接聞いて学ぶ場は過去に単発で数件聞いた程度である。非常に珍しい上に有益なこの事業は、保護者・支援者のみならず、全ての地域住民の方の一層の障害理解につながって行くと考ええる。当法人は、今回申請した事業の他にも「社会に出る前の子どもたちに発達障害の本質を伝える事業」も行っている。その事業と今回行った事業②を組み合わせ、社会に出る前の子どもたちに対して、当事者の方が直接リアルな声を届けられる場を作ることができると、いじめ問題の解決、企業における発達障害の理解促進、全ての方の生きやすさにも次第に繋がっていくものとする。今回の事業は、他の企業・団体や当法人の他の事業と組み合わせることによって一層、地域社会への還元を可能にするものとする。
今後どのように事業を継続し発展させるか
今回の事業は法人設立から半年で開始した。そのため、活動実績とデータがなく、事業内で行った施設への説明においても説得力に欠けると感じられる部分が多かった。しかし、今回の事業①で得られたデータによって説得力が一気に増したと考えられる。今後は得られたデータを前面に出し、パンフレットを作成する予定としている。そのパンフレットを用いて施設への説明、提案を加速させ、事業の継続に繋げていきたいと考えている。事業②に関しては、「(1)宣伝できた範囲の少なさ」と「(2)実施場所にこれに人がいた」という2つの課題が浮き彫りになった。(1)に関してはRe-eachが今後行って行く予定の「地域連携事業」と事業①の説明・提案を利用し、解決に向かっていくと考えている。(2)に関しては、オンライン企画を増やしていく事によって解決を図っていく予定である。「ASD当事者の方のリアルな声を聴く」という大切な部分は残しながら、より多くの方に参加し、学んで頂けるように工夫を凝らすことで事業の拡大(発展)発展へと繋げていきたい。

事業収支計算書

法人名 NPO法人Re-each

1 収入の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
助成金	367,000	367,000	0	
自己資金	508	508	0	
活動実施による収入等	0	0	0	
その他	0	0	0	
収入の部 合計	367,508	367,508	0	

2 支出の部

(単位:円)

項目	予算額 A	決算額 B	増減額 C=B-A	備考
会場費	9,450	9,450	0	
通信運搬費	12,090	12,090	0	
旅費交通費	109,210	109,210	0	
消耗品費	87,490	87,490	0	
備品費	60,980	60,980	0	
委託費	39,978	39,978	0	
謝金	40,000	40,000	0	
人件費	0	0	0	
その他	8,310	8,310	0	
支出の部 合計	367,508	367,508	0	